

思索と言語

ことばを科学する：人間の再発見

授業概要

「私の隣にキリンはいない」。「昨日雨が降らなかったら、公園でサッカーができたのに」。これらの文と同じ情報をことば以外の方法（たとえば、図や絵）で簡単に表すことはできないでしょう。また、人間以外の動物のコミュニケーションでもこのような意味を表す仕組みはないと考えられています。しかし、人間であればどの言語の話者でも3歳にもなれば上記のような表現を簡単にすることができます。

この授業では、1950年代から始まった新しいことば研究の方法論（生成言語理論）を基調に、人間が持つことばのさまざまな側面について考えてみます。特に、自分の母語は自分にとってあまりにも当たり前のもので、それを客体化してあらためて考えるということをしてないばかりか、自分のことばのことは自分がよく知っていると思い込んでしまいがちです。人間のことばを操る能力は実際には大変不思議で、奥が深いものです。その特徴を少し知ることによって、自分自身を含めた人間というものを「再発見」する機会にしたいと考えています。

同時に、人間の言語能力の研究方法を通して、科学的な研究の本質とは何かを考えてみる機会としたいと思います。

到達目標

受講生は、人間の持つ言語能力のおもしろさ・不思議さを理解できるようになります。また、「科学的に」言語を研究する方法の概要を一部理解できるようになります。同時に、受講生は（英語を含む）文書・論説を読み、まとめるトレーニングを受けることになります。

成績評価

- (A) 期末レポート：20%
- (B) Homework/Class Work：80%
- Homework: reading assignmentが中心（40%～50%）
（必要なreading資料の配布と宿題はWebTubeで行います）
- Pre-class Work/In-class Work（30%～40%）
- *参加学生に人数によっては、評価の方法を修正する可能性もあります。
（その場合も第4週まで明示します）。

担当教員 teacher in charge

奥 聡

メディア・コミュニケーション
研究院 教授



母語の「あたりまえ」に科学の光を当てると

ヒトの
言語能力
とは？



科学的
方法
とは？

「新奇なものへの健全な好奇心」
「慎重で合理的な思考力」を養う
文理融合型授業

人間を、そして自分を「再発見」しよう

授業計画

- Week1 イントロダクション：人間言語とは？
言語科学とは？新しい言語学の誕生
- Week2 科学的に研究するとは？
「言語能力」と「言語運用」
- Week3 - 4 「単語」の再発見:そもそも「単語」
とは何？ 頭の中の辞書はただの「語彙
のリスト」ではありません
- Week5 - 6 「言語音」再発見:なぜ聞き分けられ
る「大学」と「退学」。
方言は「なまっている」？
- Week7 - 9 「文を組み立てる仕組み」の再発見:
無限を生み出す力。初めて聞く文でも
なぜ理解できるのか？
- Week10 自然科学としての言語研究
- Week11 - 12 「意味」の再発見:あなたの
「机」と私の「机」同じ意味？
「自分」は誰？
- Week13 - 14 「言語獲得」の再発見：いつのま
に覚えたの？獲得研究の方法論
- Week15 まとめ: ことばの使用について。
「人間」の再発見